

令和4年度学校経営計画に対する最終報告書

石川県立鹿西高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び改善策（成果と課題）
<p>1 学習習慣の確立と教科指導力の向上</p> <p>・学ぶ楽しさや充実感、達成感の得られる授業を展開し、生徒が自ら計画を立て進んで学習に向かう力を育成する。</p> <p>・生徒の学習状況を把握し、個別指導、習熟度別指導や学習方法の指導を効果的に取り入れ、学習内容の着実な定着と学力向上に努める。</p> <p>・若手教員早期育成プログラム、中高連携（中能登中学校との学習交流会等）、他校への授業参観、大学入試問題研究の推進等により指導力の向上に努める。</p> <p>・GIGA校内研修推進リーダーを中心とした校内研修を通じて、ICT活用指導力向上に取り組み、生徒の学びの質の向上を目指す。</p>	<p>① 研究授業・相互参観授業並びに協議会を計画的に行い、全教員の組織的な授業研究によって、思考力を高める授業を展開する。</p>	<p>【教員】思考力・判断力・表現力を育成する学習活動を取り入れた授業は全授業回数の5割以上であると答える教員が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満</p>	<p style="text-align: center;">D (28.0%)</p>	<p>5割以上と回答した教員は前期に比べ8%、4割以上も12%アップ(36%になった)したが、達成基準には及ばない。しかし「深く考えさせる授業である」と答える生徒の割合は92.0%と高い。教員が意識せずに授業展開している結果とも捉えられるので、意識的に授業設計し、意図的にこれらの力を育成する場面をもつことが必要である。</p>
	<p>② 生徒による授業評価結果を授業改善に生かし、学習意欲と学力の向上につなげる。</p>	<p>【生徒】授業が動機づけとなり意欲的に学習に取り組んでいると答える生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p style="text-align: center;">A (92.3%)</p>	<p>近年は高水準のアンケート回答が続いている。授業での学習内容及び学習活動が理解でき、ICT機器等の効果的な活用や、授業展開の工夫等により、意欲的に学習に取り組んでいると思われる。今後もさらなる授業改善を行いたい。</p>
	<p>③ 家庭学習時間や出席状況を把握し、その調査結果を全教員が共有し、生徒個々への、指導・助言・相談に携わる。</p>	<p>【生徒】授業内容を理解できると答える生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p style="text-align: center;">A (89.8%)</p>	<p>多くの生徒が授業内容を理解できると答えている。アンケートを重ねるごとに数値が少しずつ増えており、教員の授業改善の成果であると考えられる。生徒一人一台端末の配置により、視覚的な提示がしやすくなったことも一要因である。</p>
	<p>④ 校内研修推進リーダーを中心に、校内研修を通してICT活用指導力の向上を図る。教員総合研修センターでの希望研修の受講を奨励する。</p>	<p>【生徒】目標家庭学習時間を達成した生徒が A 50%以上 B 35%以上 C 20%以上 D 20%未満</p>	<p style="text-align: center;">B (47.1%)</p>	<p>11月の新入大会後～12月の期間、毎日の生徒の記録からの集計結果である。上半期と同じく3年生や定期考査前は達成率が高い。R4の上半期や昨年と同時期と比べても、学習時間は伸びており、教員の働きかけによる成果が出ている。今後も日々の細やかな学習指導や進路に関する指導を通して生徒のモチベーションを高め、家庭学習習慣を確立させていきたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>		<p>他の教科の授業を観るのは大切なことだと思っている。鹿西高校では複数回の相互参観を行っており、1人1台端末についても高頻度で活用されていることがわかった。</p>		
<p>評価結果を踏まえた今後の改善策</p>		<p>生徒用端末について、職員も生徒も活用法の研究が進んできたが、思考力を磨いたり、学びあいを大切にしたりするためにも、基本的な事柄は家庭学習で取り組み、授業で考えたことや、学んだことを、自分の力でアウトプットする学習を展開できるようにしたい。どのような予習復習を求めれば良いか、教科や学年で検討する。</p>		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び改善策（成果と課題）
<p>2 豊かな人間性の育成、健康や体力の増進、たくましい人づくりの推進</p> <hr/> <p>・健康で安全な生活を送るための基本的な生活習慣を確立させるとともに、感染症対策の徹底を図る。</p> <p>・生徒会活動や学校行事、部活動、ボランティア活動を通して、豊かな人間性や社会性を育む。</p> <p>・生徒理解を深め、いじめ・暴力・ネットトラブル等の問題行動や不登校の未然防止と早期の対応に努める。</p>	① 日常での遅刻、服装、マナー等に関する基本的な生活習慣の指導を全教員で行う。	【生徒】頭髪服装検査において、再検査指導を受ける生徒の割合が A 10%未満 B 15%未満 C 20%未満 D 20%以上	A (9.5%)	極端に違反している生徒はおらず、おおむね良好な状況といえる。身だしなみについては、気づいた教員がその都度、指導していく必要がある。
	② 感染症対策の徹底のため、保健衛生環境の整備を全教員で行う。	【教員】感染症対策について、校内で意識的に取り組んでいると答える教員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A (100%)	年度後半の全国的な新型コロナウイルス感染症の増加と、冬季の季節性インフルエンザとの同時流行の怖れが盛んに報道される中、校内においても感染対策に積極的に取り組む姿勢がよりいっそう高まった。
	③ 鹿高祭、校内球技大会、校内合唱大会等の学校行事を通して生徒の自主性・協調性を育成する。	【生徒】行事に対して満足感・達成感を持っている生徒の割合は A 85%以上 B 75%以上 C 55%以上 D 55%未満	A (90.4%)	鹿高祭を3日間に延長したこと、総合スポーツセンターで体育祭を実施したことが高評価につながっている。引き続き、生徒に自己決定の場を与え、共感的な人間関係を構築できるような行事運営を心掛ける。
	④ 部活動では健康・安全面を考慮し、有意義で充実した活動を行う。	【保護者】子どもが学校生活を意欲的に送るようになったと答える保護者が A 85%以上 B 75%以上 C 55%以上 D 55%未満	A (91.1%)	各課、各学年での取り組みが奏功しており、また各課、各学年との連携がとれていることが高評価につながっている。引き続き、保護者の理解が得られるような生徒会活動を目指す。
	⑤ 問題を抱えている生徒に対して、生徒課・保健課・教育相談課・担任・学年主任を中心に全教員で連携し、解決にあたる。悩みを抱える生徒の早期発見早期対策を行う。	【生徒】充実した部活動を実践していると感じる生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A (82.5%)	生徒が主体的に取り組んでいる部が多く、ここ2年間は高い評価を得られている。今後も生徒に自己存在感を与え、共感的な人間関係を構築できるような部活動運営となるよう各部の顧問に呼び掛けていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		【教員】各課・学年と連携がとれて、問題を抱えた生徒の早期把握と対策がとれたと答える教員が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	A (70.4%)	A評価であるが、前期が92.3%で21.9ポイント低下である。これは後期においては各課と学年との連携がやや円滑でなかったことが要因と考察する。教職員の連携を常に促し、問題を抱えた生徒への対処をできる限り早期に取り組んでいきたい。
評価結果を踏まえた今後の改善策		おとなしい生徒が多い場合、問題を発見しにくいという面もある。問題を抱えている生徒の早期把握と対策に向け、情報共有の速さと細かさを大切にほしい。各課・学年と連携がとれて、問題を抱えた生徒の早期把握と対策がとれたと答えた教員が20ポイント以上減少している。A評価からA評価への変化であるが、原因を考えてほしい。		面談強化週間なども活用し、まずは担任と生徒との信頼関係を構築し、生徒が発信しやすい環境を作り、保護者との、連絡・連携を密にするよう努める。また、職員間での報告・連絡・相談をこまめに行い、様々な事柄に対して早期に対処できるよう努める。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び改善策（成果と課題）
<p>3 キャリア教育の推進と進路指導体制の確立</p> <p>・地域と連携した総合的な探究の時間等を通して、ふるさとや将来について考える機会を持たせ、主体的な進路の選択能力を育成するとともに、課題を発見し解決していくための資質・能力の育成を目指す。</p> <p>・読書活動、進路学習、講演会、面談指導等を通して明確な進路目標を持たせ、進路実現を目指す態度を早期に実現する。</p> <p>・教職員間の連携・協力を密にし、指導方法や指導体制を工夫して、3年間を見通した進路指導体制を構築する。</p>	<p>① 定期的な進路情報の提供に努め、大学見学会、進路希望別説明会、保護者懇談会、コース選択説明会、卒業生と語る会等進路ガイダンスを充実させる。</p> <p>面談等により生徒の進路意識を高揚させ、積極的に進路実現を目指す態度を育成する。また、必要に応じて教科担当者の面談も行う。</p>	<p>【教員（担任+進路指導課）】 半期に行う対象教員による進路ガイダンスの回数が5回以上である割合が A 75%以上 B 65%以上 C 55%以上 D 55%未満</p> <p>※進路ガイダンスには、個人面談、奨学金説明会、大学見学会、各学年集会の進路説明会、コース選択説明会、卒業生と語る会等を含める。</p> <p>【生徒】自分の進路希望を実現させるために必要な情報が何であるかをわかっている生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p style="text-align: center;">D (45.0%)</p>	<p>4回以上行っている教員の割合は65%でありこの数値は前期(52.7%)よりも増加している。しかし、依然として教員間の差が大きい。進路意識を向上させるためには対話による教員側からのアプローチが必要である。そのため、全体的なガイダンスはもちろんのこと、生徒の実態・状況やニーズを正確に把握した上で、適切な助言を行うために、面談機会の確保・拡充を図る必要がある。</p>
	<p>② 「総合的な探究の時間」の活動を通して、ふるさとや将来について考え、主体的な進路の選択能力を養う。</p>	<p>【生徒】取組によってふるさとや将来について考えられたと答える生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満</p>	<p style="text-align: center;">A (90.7%)</p>	<p>1年生の評価が特に高く、98.9%となっている。実際にフィールドリサーチへ出かけ情報を集める点が中学校とは異なっており、また情報をグループで取り扱うため、協議の中で地域や自分の将来について考えるきっかけとなっているからだと思う。</p>
	<p>③ 朝読書や学級文庫等で、読書意欲を喚起し、読書の習慣を身につけさせることで、自分自身を見つめながら自己の将来についても考えることができる生徒を育成する。</p>	<p>【生徒】読書は進路について考えたり、社会や自分をみつめたりするうえで有意義であると答える生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満</p>	<p style="text-align: center;">B (88.5%)</p>	<p>3年生で「よくあてはまる」と回答した割合は前期より13.2ポイントアップした。司書による新書の読み方等のレクチャーを受け、小論文や面接等を含め自分の考えを持ったり、整理したりするために必要性を実感したためと思われる。2年生でも4.4ポイントアップした。</p>
	<p>④ 教科会議で各種の試験・模試等のデータを分析して生徒の状況を的確に把握した上で、授業や補習で指導する内容を検討する。幅広い進路選択に対してきめ細かく指導し進路実現を図る。</p>	<p>【教員】入試問題を念頭に置いた教科指導の改善に取り組んでいる教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p style="text-align: center;">A (95.7%)</p>	<p>ほとんどの教員が共通テストを中心とした入試問題を念頭において教科指導の改善に取り組んでいる。一方で、教科としては、模試の成績データを客観的に分析して対策を講ずることがやや不十分となっている。教科会議を軸に指導法等の検討を充実させ、指導の底上げを図る必要がある。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>進路ガイダンスの回数にこだわるのは教員も苦しいのではないか。内容にも評価できる部分があるのではないか。進路先について、地元だけでなく関西・関東への意識を向けさせてほしい。</p>			
<p>評価結果を踏まえた今後の改善策</p>	<p>回数にこだわらず、適時に面談を少しでも多くできるように気を付けたい。 現3年生において、国公立志望者については県外へ意識を向けさせることができた。しかし、私立大学等の志望者については県外の進路先を検討させる機会が少なかった。次年度からはもう少し情報を与えて県外にも目が向くように促していきたい。</p>			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び改善策（成果と課題）
<p>4 保護者や地域から信頼される学校づくりの推進</p> <hr/> <p>・働き方改革への意識を高めながら業務改善を組織的に推進する。</p> <p>・学校公開、ホームページ、学校だより、マスメディア等によって広報活動の充実を図り、本校の教育活動の理解が深まるように努める。</p> <p>・中学校の生徒や保護者に本校の教育活動の特色や魅力を伝え、本校への志願者の確保に努める。</p>	① 教員が業務効率化を進めながら、教育効果を高めるために組織的な改革に取り組む。	<p>【教員】学校が組織的に業務効率化を進めていることにより、業務効率化が進んでいると実感している教員の割合が</p> <p>A 75%以上 B 65%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>B (74.1%)</p>	<p>前期は73.1%。業務の効率化について、今年度の当初に大きな改善に取り組み、前期は前年同期よりも8.5ポイント上昇したが、その後新しい取組はしていない。時間外勤務時間の全体平均は少しずつ減ってきているが、業務の質・量が偏る傾向があるため、業務量の平準化への配慮・指導が必要である。</p>
	② 各課・学年と連携して教育効果を高める情報を保護者に提供し、学校と保護者が一体となるように、学校行事等への参加を積極的に呼びかける。	<p>【保護者】PTA総会、PTA教育懇談会、教育ウィークなど年間を通して生徒や学校の様子を見に来校した保護者の延べ人数が</p> <p>A 500人以上 B 400以上 C 250以上 D 250未満</p>	<p>B (476人)</p>	<p>昨年度と比較し170人増加した。PTA総会を対面式で実施できるようになる等、来校者を昨年度よりも受け入れやすい状況となったことが主な要因だと考えられる。教育ウィークでは特に1年生の保護者が多く来校していた。3年生の保護者を中心に進路に関する相談の場を設け、学校の様子や状況を発信し、興味や関心を高めたい。</p>
	③ 学校と家庭が連携し、携帯電話、スマートフォンを適切に使用する態度を身につけさせるように働きかける。	<p>【生徒】携帯電話、スマートフォンの「家庭内ルール」を「守っている」、「ほぼ守っている」と回答した生徒の割合が</p> <p>A 85%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満</p>	<p>A (94.5%)</p>	<p>生徒の自己評価では、殆どの生徒が守っていると回答した。保護者の回答では70.8%であり、今回も大きな開きはあったが、70%を超えており、多くの生徒は家庭内でのルールを守っているのだろうと推測できる。</p>
	④ ホームページの内容を充実させ、本校の教育活動の内容を保護者に理解してもらうとともに、学校配信メールによる情報提供の充実を図る。	<p>【保護者】ホームページや学校からの通信文書により、教育活動が分かりやすいと感じている保護者の割合が</p> <p>A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満</p>	<p>B (92.4%)</p>	<p>前期から3.6ポイントアップしB評価となった。アンケート自由記述欄にも、「学校の様子がよくわかりやすい」というコメントがあり、一定の成果はあると感じる。学校だよりの速報版を2度発行し、それらを中能登町の回覧板で町民の目に触れるようにした。また、中能登町の広報に、行事の記事と学校HPの二次元コードを掲載してもらった。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>地元の情報誌に1度掲載されていたが、そのほかにも掲載されるようなことはあったのか。可能であれば今後も続けてほしい。染織部やおにぎりグランプリなど本校の特色のようなものをどのようにPRしているのか。</p>			
<p>評価結果を踏まえた今後の改善策</p>	<p>吹奏楽部の定期演奏会などはケーブルテレビにも放映されている。情報誌については1度きりであるため、今後も町に相談したい。 染織部については、NHKで取りあげられた。文化的な活動を大切にし、文化部の活動、染織部などの活動を活性化させたい。</p>			